

第19回日本エイズ学会学術集会・総会

講演抄録集

会 期：2005年12月1日(木)～3日(土)

会 場：熊 本 市 民 会 館

〒860-0805 熊本市桜町1-3 TEL 096-355-5235 FAX 096-355-5239

熊本市国際交流会館

〒860-0806 熊本市花畑町4-8 TEL 096-359-2020 FAX 096-359-5112

会 長：原田 信志（熊本大学大学院医学薬学研究部感染防御学分野）

主 催：日本エイズ学会

後 援：化学及血清療法研究所

歴代日本エイズ学会会長・理事長 一覧

		開催 場所	会 長 名 (所属)	理事長名 (所属)
第1回	昭和62年 ('87)	京 都	日沼 頼夫 (京都大学)	日沼 頼夫 (京都大学)
第2回	昭和63年 ('88)	東 京	島田 馨 (東京大学)	//
第3回	平成元年 ('89)	松 江	栗村 敬 (鳥取大学)	//
第4回	平成2年 ('90)	横 浜	山田 兼雄 (聖マリアンナ医科大学)	//
第5回	平成3年 ('91)	大 阪	中井 益代 (大阪医科大学)	//
第6回	平成4年 ('92)	名古屋	斉藤 英彦 (名古屋大学)	//
第7回	平成5年 ('93)	東 京	北村 敬 (国立予防衛生研究所)	//
第8回	平成6年 ('94)	札 幌	宮崎 保 (北海道大学)	//
第9回	平成7年 ('95)	大 阪	上田 重晴 (大阪大学)	栗村 敬 (大阪大学)
第10回	平成8年 ('96)	横 浜	長尾 大 (神奈川県立こども医療センター)	//
第11回	平成9年 ('97)	熊 本	高月 清 (田附興風会北野病院)	//
第12回	平成10年 ('98)	東 京	山本 直樹 (東京医科歯科大学)	//
第13回	平成11年 ('99)	東 京	根岸 昌功 (東京都立駒込病院)	上田 重晴 (大阪大学)
第14回	平成12年 ('00)	京 都	速水 正憲 (京都大学)	//
第15回	平成13年 ('01)	東 京	木村 哲 (東京大学)	木村 哲 (東京大学)
第16回	平成14年 ('02)	名古屋	岡本 尚 (名古屋市立大学)	//
第17回	平成15年 ('03)	神 戸	木原 正博 (京都大学)	木村 哲 (国立国際医療センター)
第18回	平成16年 ('04)	静 岡	三間屋純一 (静岡県立こども病院)	//
第19回	平成17年 ('05)	熊 本	原田 信志 (熊本大学)	岩本 愛吉 (東京大学医科学研究所)

第19回日本エイズ学会学術集会・総会

【プログラム委員】

岡田 誠治、庄司 省三、滝口 雅文、田中 勇悦、馬場 昌範、原田 信志(委員長)、
前田ひとみ、前田 洋助、松下 修三、満屋 裕明、森内 浩幸、遊佐 敬介

【事務局】

前田 洋助、遊佐 敬介

目 次

1) 会長挨拶	428 (7)
2) 会場へのアクセス	428 (7)
3) 会場案内図	428 (7)
4) 日程表	428 (7)
5) 開催概要	428 (7)
一般案内	428 (7)
講演規定	428 (7)
座長および演者の方へ	428 (7)
6) プログラム	428 (7)
特別プログラム	428 (7)
一般演題プログラム	428 (7)
7) 抄録	428 (7)
特別講演	428 (7)
会長講演	428 (7)
教育講演	428 (7)
シンポジウム	428 (7)
ランチョンセミナー	428 (7)
イブニングセミナー	428 (7)
サテライトシンポジウム	428 (7)
市民公開講座	428 (7)
一般演題	428 (7)
8) 演者索引	428 (7)

会長挨拶

第19回日本エイズ学会学術集会・総会の開催にあたって

第19回日本エイズ学会学術集会・総会 会長
原田 信志

普遍性を求めて

第19回日本エイズ学会学術集会・総会を平成17年12月1日から3日にかけて熊本市で開催いたします。

思えば第1回の本学術集会は1987年12月21、22日に京都で開催されました。当時はまだ単なるエイズ研究会であり、集まった演題は103題でした。第18回総会における学会賞受賞講演で日沼頼夫先生が回顧された如く、先生ご自身や栗村敬先生らの御尽力による発足でした。しかし、この研究会をつくるにあたって最も心配されたのがエイズだけの単一疾患(しかも当時 HIV 感染者は極めて少なかった)で会が維持できるかということでした。それには幅広い分野から英知を集める必要があったのです。研究会の前日に京大会館で行われた公開シンポジウムのプログラムが手元にあります。演者には、臨床医学から根岸昌功、公衆衛生から大井玄、自然人類学から河合雅雄、哲学から浅田彰のメンバーが記載されています。つまり現在のエイズ学会のありかたを象徴するかのよようなシンポジウムでした。

あれから19年、エイズそのものの問題は未だ解決されてはいないものの、エイズ学会では臨床医学、基礎研究、社会教育系と様々な分野で大きな成果をあげてきたと思われまます。HIV 感染者の抗ウイルス剤療法、HIV のレトロウイルス学としての進歩、HIV 感染者に対する社会的問題への解決策など、もう他の分野のトップレベルまで進んでしまった感があります。しかし、これらの蓄積された知識はSARSの感染勃発の時にどれだけ役にたったのでしょうか？ 新型のインフルエンザウイルスが流行する時どれだけ役に立つと思われるのでしょうか？

研究の最大の目標はある真実を証明することでしょう。その真実が幅広い事象に応用できれば、それだけその事実の価値が高く評価されます。エイズの研究でも同じことが言えるのかもしれませんが。普遍性のある抗ウイルス療法、あらゆるウイルスが関連する細胞因子の発見、感染者だけでなく病む人が共通に抱える問題への対応策など、いろいろ進む方向はあると思われまます。そのためには、エイズだけでなく類似の疾患、類似のウイルスからいろいろ学ぶ必要もあるでしょう。

第19回日本エイズ学会学術集会・総会は熊本で開催いたします。熊本の特色とその普遍性を求めて、本学会は企画を進めていきたいと考えています。熊本では成人 T 細胞白血病を発見された高月清先生(第11回日本エイズ学会会長)がおられました。HTLV-I への研究には深い関心と研究の蓄積があり、また熊本に縁の深い多くのレトロウイルス研究者がおられます。また、熊本では水俣病が発生し、昔からハンセン病の療養施設があります。現在でもこれらの疾患はエイズと同じような多くの問題を抱えています。一度、違った観点からエイズを考え直す機会をもてたらと思っています。

平成16年12月15日

演題の査読を終えて

ニューヨークは各国からの移民で構成された町である。そのため、人種のるつぼ melting pot だと呼ばれている。しかし、実際は melting pot ではなく salad bar だと言う人もいる。なぜなら、ニューヨークには中華街がありイタリア人街、マンハッタンの南にはポーランド系が多く住み、日本人も多く住む地区がある。つまり、種々雑多な人々が混血となる確率より、個々の文化を維持し住み分ける傾向がニューヨークでも高い。混ざってはいるが、レタスはレタス、トマト、キュウリと個別に存在する salad bar なのである。しかし、そのような混在のなかで競合と他者への理解が生まれ、発展しているのがアメリカの社会ではなかろうか。

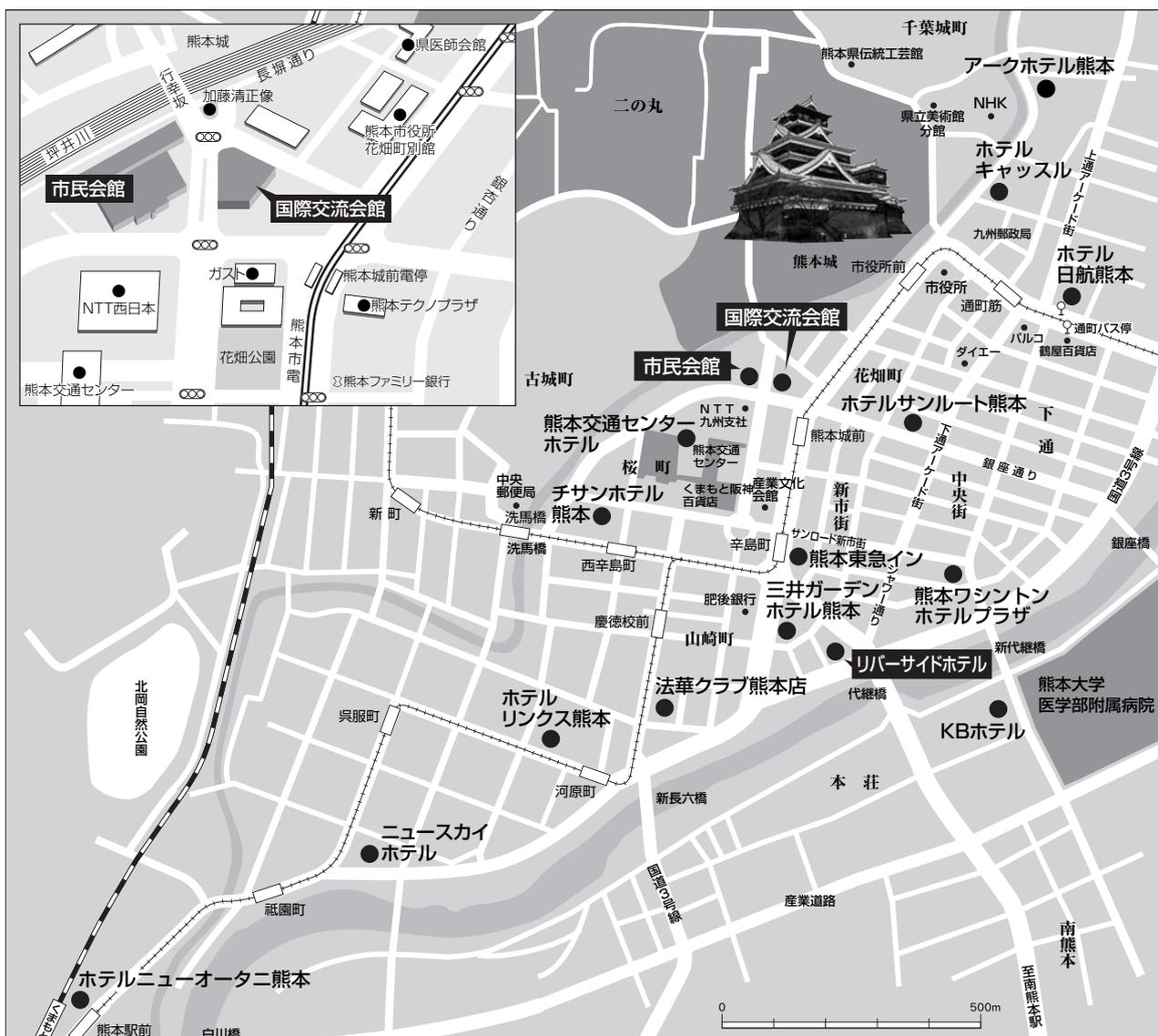
第19回日本エイズ学会学術集会には、おかげさまで基礎研究115、臨床研究159、予防教育44と合計318題の演題が集まった。これらの演題抄録を教室員と3人で査読する作業にかかった。最も困ったのは、様々な分野の集まりなので、抄録が書かれている様式が異なることである。評価が難しい。なかには何の目的でなされた研究・調査か、何を主張したいのかが不明確なものもあった。

もう一つ、査読を終えて考えさせられるのは、意外と領域間で交流した研究が少ないことである。「普遍性を求めて」で述べたように、この学会の始まりは、様々な分野間の交流をエイズという key word で結び付けることではなかったろうか。Translational research という言葉がもてはやされてはいるが、異なった分野の研究の融合は実際のところ難しいのだろう。Salad bar なら、是非、学会というドレッシングの場で研究者間での交流を行っていただきたい。

今回、特別講演では、エイズの倫理的側面の、また基礎的研究だけでなく臨床にも重要な免疫学的側面での話を企画した。シンポジウムでは HIV と HTLV を取り上げ、また水俣病やハンセン病からも何かを学んで欲しいと思う。エイズという疾病の総合的理解からだけでなく、他の分野からもその経験と知識を吸収し、今後の研究と教育の発展の礎にしていきたい。

平成17年8月26日

会場へのアクセス



■JR熊本駅からは熊本名物の市電が便利です。

駅前の市電乗り場から、どれに乗っても会場近くまで行きます。

1. 市電(所用時間約15分)150円
熊本城前電停下車、徒歩5分
2. タクシー(約10分)約800円

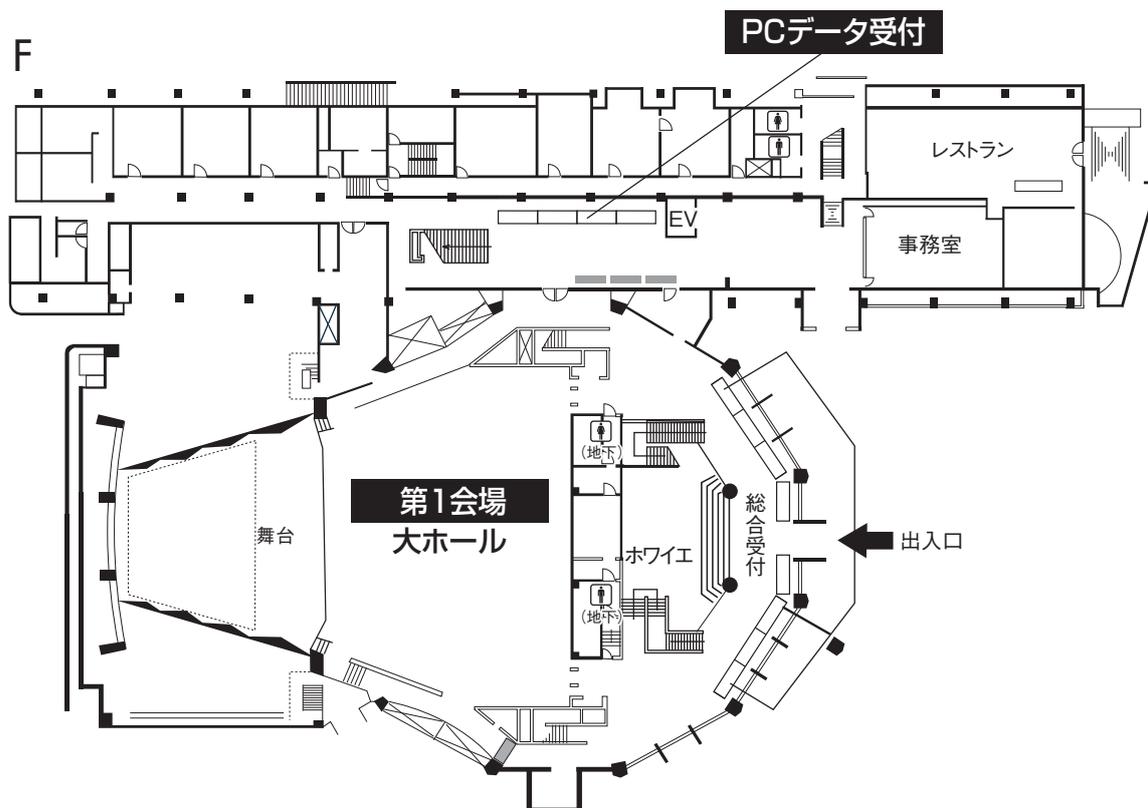
■熊本空港からは空港バスで終点まで

1. 空港バス(所用時間約50分)
670円
交通センター下車、徒歩2分
2. タクシー(約40分)約4,500円

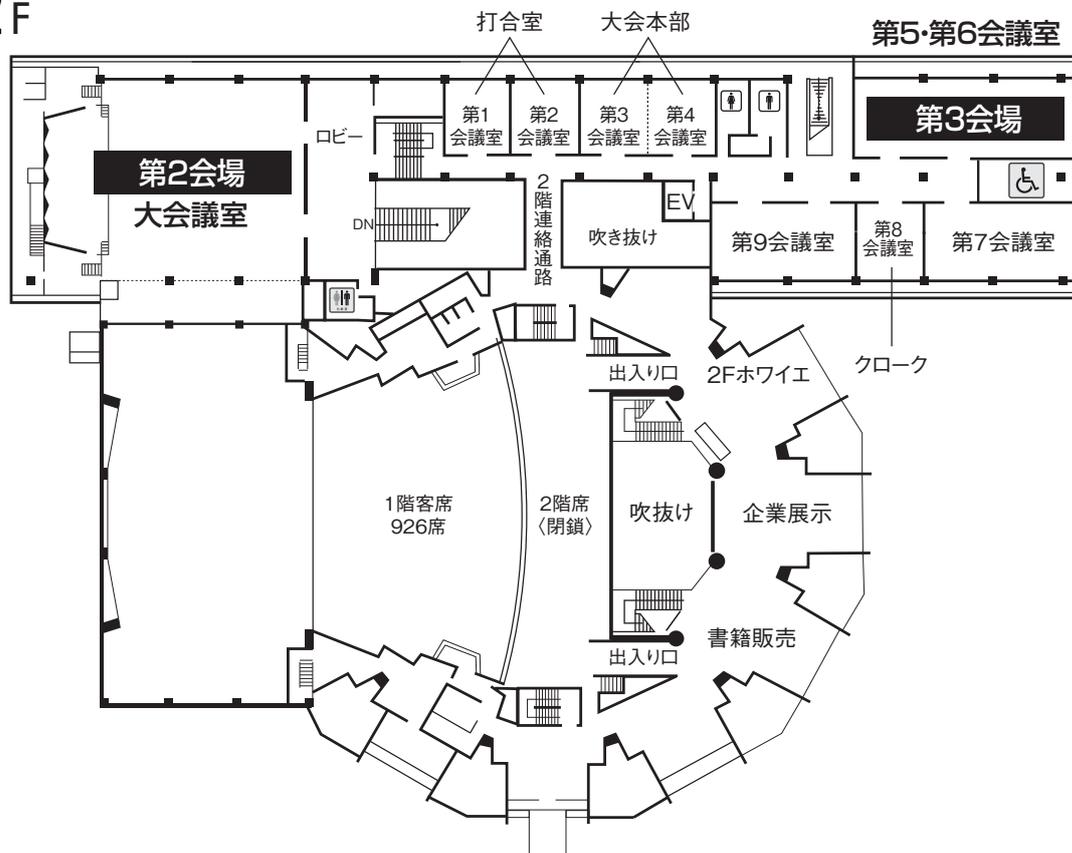
会場案内図

○ 市民会館 ○

1F

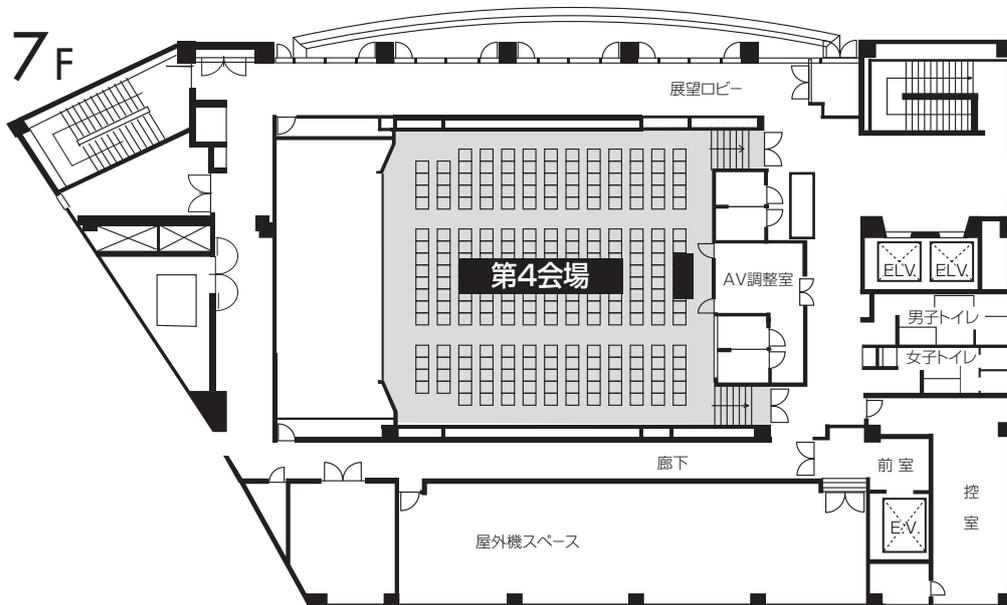
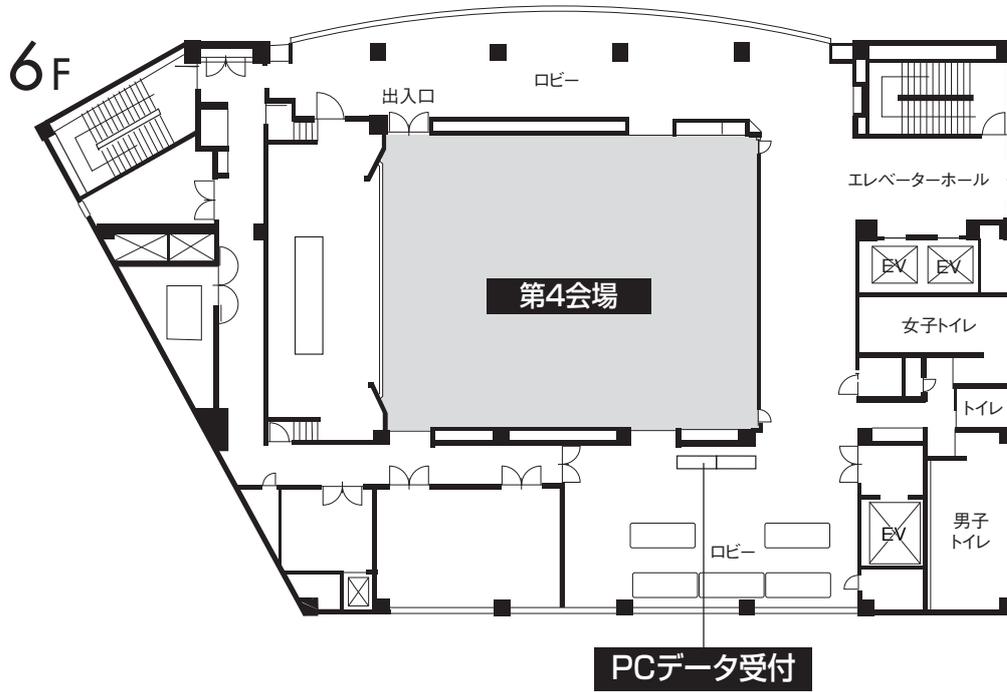


2F



会場案内図

○国際交流会館○



日 程 表

1日目 日程表 12月1日(因)

	第1会場 1・2F 市民会館(大ホール)	第2会場 2F 市民会館(大会議室)	第3会場 2F 市民会館(第5・6会議室)	第4会場 6・7F 国際交流会館(ホール)
9:00	9:00~10:30 1) 日和見感染症1 座長:服部 俊夫 山本 政弘	9:00~9:50 6) 医療側意識調査 座長:井上 洋士	9:00~9:40 14) STD/STI/性感染症 座長:中瀬 克巳	9:00~10:00 20) HIV感染機構1 座長:森内 昌子 三浦 義治
10:00	10:30~11:40 2) 日和見感染症2 座長:安岡 彰 青木 眞	9:50~10:40 7) 行動意識調査 座長:五島真理為	9:40~11:10 15) 検査体制 座長:市川 誠一 今井 光信	10:00~10:40 21) HIV感染機構2 座長:藤田美歌子
11:00		10:40~11:30 8) 予防教育 座長:池上千寿子		10:40~11:40 22) Vpr・Nef 座長:中山 英美 高折 晃史
12:00	ランチョンセミナー1 Strategies for initial therapy: factors affecting the choice of the first regimen 演者:Joel E. Gallant 共催:アボットジャパン	ランチョンセミナー2 私のNNRTIの使い方 演者:味澤 篤 共催:万有製薬	ランチョンセミナー3 薬剤部を上手に使う方法 演者:栗原 健 共催:プリストルマイヤーズ	
13:00	13:10~14:10 3) 医療体制1 座長:市橋 恵子 有馬 美奈	13:10~14:10 9) 肝炎1 座長:小池 和彦 福武 勝幸	13:10~13:50 16) 薬剤耐性1 座長:松見信太郎	13:10~15:10 シンポジウム3 HIV-1とHTLV-I: ベンチからベッドサイドへ 座長:満屋 裕明 松岡 雅雄
14:00	14:10~15:40 4) 医療体制2 座長:根岸 昌功 高田 昇	14:10~14:50 10) 肝炎2 座長:瀧 正志	13:50~14:50 17) 薬剤耐性2 座長:田宮 貞宏 蜂谷 敦子	
15:00		15:20~15:50 11) 普及啓発教育 座長:桜井 賢樹	14:50~15:30 18) 薬剤耐性3 座長:杉浦 互	15:20~16:10 23) HIV粒子・組み込み・メチル化 座長:有海 康雄
16:00	15:50~17:50 シンポジウム1 HIV/AIDSの臨床における最近の問題点 座長:松下 修三 杉浦 互	15:50~17:00 12) 看護1 座長:橋口 桂子 島田 恵	15:50~17:30 シンポジウム2 HIV検査・相談の現状と今後のあり方 座長:今井 光信 市川 誠一	16:10~16:50 24) Vif・APOBEC3G 座長:間 陽子
17:00		17:00~17:40 13) 看護2 座長:木村真知子		16:50~17:30 25) HIV複製・転写 座長:石田 尚臣
18:00	18:00~19:10 5) 予防介入 座長:矢永由里子 木原 正博	18:00~20:00 GSKイブニングセミナー HIV感染症「治療の手引き」第9版 司会:木村 哲 満屋 裕明 共催:HIV感染症治療研究会 グラクソスミスクライン株式会社	18:00~19:10 19) 病態 座長:明里 宏文 三浦 智行	17:30~18:10 26) HIV複製・宿主因子 座長:鈴 伸也
19:00				18:10~19:20 27) HIV分子進化系統 座長:武部 豊 佐藤 裕徳
20:00				

日 程 表

2日目 日程表 12月2日(金)

	第1会場 1・2F 市民会館(大ホール)	第2会場 2F 市民会館(大会議室)	第3会場 2F 市民会館(第5・6会議室)	第4会場 6・7F 国際交流会館(ホール)
9:00	9:00~9:40 28)薬物動態1 座長:花房 秀次	9:00~10:10 32)カウンセリング 座長:前田 ひとみ 山中 京子	9:00~9:40 34)歯科1 座長:柿澤 卓	9:00~10:00 38)新規薬剤1 座長:西澤 雅子 岡本 実佳
10:00	9:40~10:40 29)薬物動態2 座長:桑原 健 湯永 博之	10:10~10:50 33)薬害エイズ 座長:白幡 聡	9:40~10:50 35)歯科2 座長:前田 憲昭 池田 正一	10:00~10:50 39)新規薬剤2 座長:児玉 栄一
11:00	11:00~11:50 特別講演1 Ethical considerations to help assure high quality care in the global epidemic of AIDS 演者:Ruth Purtilo			
12:00	ランチョンセミナー4 新世代のHAARTにおける レイアタック(ATV)の位置づけ 演者:岡 慎一 共催:プリストルマイヤーズ	ランチョンセミナー5 HBV/HIV重複感染例の 治療戦略 演者:四柳 宏・菊池 嘉 共催:鳥居薬品	ランチョンセミナー6 症例から学ぶ HIV感染症「発見」のコツ 演者:Ann Khalsa 共催:グラクソ・スミスクライン	
13:00	13:10~14:00 総 会			
14:00	14:00~14:40 会長講演 Multiple-site binding説再考 演者:原田信志			
15:00	14:40~15:40 特別講演2 Structure/function relationships relevant to the V3 loop of HIV-1 gp120 演者:Susan Zolla-Pazner			
16:00	15:40~16:40 特別講演3 T cell immunity and HIV vaccines 演者:A. McMichael			
17:00	16:50~18:10 30)抗HIV療法1 座長:岡 慎一 白阪 琢磨	16:50~18:30 シンポジウム4 薬害エイズ問題から 見えてくるもの 座長:三間屋純一 田口 宏昭	16:50~17:40 36)合併症1 座長:松下 修三	16:50~17:40 40)治療法開発1 座長:古田 里佳
18:00	18:10~19:00 31)抗HIV療法2 座長:中村 哲也		17:40~18:40 37)合併症2 座長:内海 眞 菊池 嘉	17:40~18:20 41)治療法開発2 座長:村上 努
19:00		18:50~20:30 HIV/AIDS外来 クリティカルパス 司会:山本 政弘 主催:国立病院機構ネットワーク研究	18:50~20:30 知識から意識へ -HIV予防介入の実践とその評価- 司会:池上千寿子 主催:財団法人エイズ予防財団	18:20~19:10 42)ワクチン1 座長:仲宗根 正
20:30				19:10~20:00 43)ワクチン2 座長:馬場 昌範

日 程 表

3日目 日程表 12月3日(日)

	第1会場 1・2F 市民会館(大ホール)	第2会場 2F 市民会館(大会議室)	第3会場 2F 市民会館(第5・6会議室)	第4会場 6・7F 国際交流会館(ホール)
9:00	9:00～10:00 44)副作用1 座長:山元 泰之 立川 夏夫	9:00～9:50 48)臨床疫学 座長:木村 博和	9:00～10:00 50)母子感染 座長:稲葉 憲之 戸谷 良造	9:00～9:50 53)動物モデル 座長:庄司 省三
10:00	10:00～10:50 45)副作用2 座長:今村 顕史	10:00～11:20 教育講演 水俣病とハンセン病 演者:原田 正孝 原田 正純	10:00～11:20 51)検査 座長:加藤 真吾 金田 次弘	9:50～10:40 54)免疫1 座長:村上 利夫
11:00	10:50～12:00 46)服薬アドヒアランス1 座長:日笠 聡 池田 和子	11:30～12:50 49)HIV感染者支援 座長:生島 嗣 幸 史子	11:20～12:40 52)診断 座長:照屋 勝治 味澤 篤	10:40～11:30 55)免疫2 座長:上野 貴将
12:00	12:00～12:40 47)服薬アドヒアランス2 座長:織田 幸子			11:30～12:10 56)免疫3 座長:神奈木真理
13:00				12:10～13:00 57)免疫4 座長:吉田 篤司
14:00				14:00～16:00 市民公開講座 エイズは防げるか? 座長:原田 信志 主催:熊本大学
15:00				
16:00				

	リバーサイドホテル 2F リバーホール
9:00	9:00～12:00 科学的エビデンスに基づく 予防の導入 -子供を取り巻く人間的 つながりの強化を目指して- 司会:木原 雅子 主催:WYSHプロジェクト
12:00	

【一般案内】

1. 参加受付

参加者の受付は熊本市民会館1F エントランスロビーにて行います。参加登録の受付で名札をお渡ししますので、各自所属・氏名をご記入下さい。事前に参加登録をされた方は当日受付の必要はありません。事前に郵送しました名札に各自所属・氏名をご記入の上会場へお入り下さい。ネームホルダーは用意してあります。

各会場への入場は、名札が必要ですので、会期中は必ずご着用下さい。

なお国際交流会館では参加受付はできませんのでご注意ください。

受付時間 12月1日(木) 8:30~19:00

12月2日(金) 8:30~19:00

12月3日(土) 8:30~12:00

参加登録費 当日 会員 10,000円

非会員 10,000円

学生 5,000円

2. 講演抄録集(本誌)(会員には配布済み)

非会員および追記をご希望の方は、日本エイズ学会デスクにて1冊6,000円(税込み)で販売いたします。

3. 関連集会

理事会： 11月30日(木) 17:00~19:00 国際交流会館4F 会議室

評議員会・総会：12月2日(金) 13:10~14:40

第20回日本エイズ学会学術集会・総会プログラム委員会：

12月1日(木) 12:00~13:00熊本市民会館2F 第1会議室

4. 交通

会場へのアクセスのページをご参照下さい。

5. クローク

熊本市民会館2F 第8会議室 12月1日(木) 8:00~20:30

12月2日(金) 8:00~21:00

12月3日(土) 8:00~14:00

6. お食事

会場周辺のランチマップをご用意しますのでご利用ください

7. 呼び出し

総合案内付近に伝言板を設けますので、ご利用下さい。サイドスライドでの呼び出しは行いませんのでご注意ください。

8. 写真展・機器展示・書籍販売

熊本市民会館大ホール2階ホワイエにて企業展示、書籍販売を行います。

9. 学会事務局

熊本大学大学院医学薬学研究部感染防御学分野

〒860-8556 熊本市本荘1-1-1 TEL：096-373-5129

10. FAX：096-373-5132

E-mail：aids19@kaiju.medic.kumamoto-u.ac.jp

ホームページ：http://square.umin.ac.jp/aids19/

【講演規定】

演者・共同演者はいずれも日本エイズ学会の正会員に限ります。

未入会の方は下記にて入会手続きをお取りください。

申し込み先：(株)メディ・イシュー（学会業務部）

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 1st ジェネシスビル5階日本エイズ学会担当

TEL：03-5805-1901 FAX：03-5805-1092

E-mail：jsar@medissue.co.jp

入会先リンク：http://jaids.umin.ac.jp/html/nyukai.html

【座長の方へ】

1. 各会場の会場受付に20分前までに座長受付をおすませ下さい。
2. 次座長席に、開始予定時刻の10分前までにご着席下さい。
3. 発表時間、討論時間は厳守してください。質疑・応答の形式は持ち時間の範囲で自由に行ってください。

【演者の方へ】

1. 発表はPC（パソコン）による口頭発表のみです。35ミリスライド、OHPは使用できませんのでご注意ください。
2. ご発表の30分前までにPCデータをPCデータ受付にて持参して読み込みと試写を行ってください。第1～第3会場での発表の方は熊本市民会館1FのPC受付に、第4会場での発表の方は国際交流会館6FのPC受付にデータを提出してください。
3. 発表データはWindowsPowerPointにて作製して、CD-R（ISO9660方式のみ、パケット方式は不可）またはUSBフラッシュメモリにて保存してお持ちください。フロッピーディスク、MOディスク、ZIP、DVDなどその他のメディアは受け付けません。またMacintoshで作成したファイルはWindows PCでの確認をお願いします。
4. 万が一の事故に備えて、必ず発表データを保存したメディア（CD-RまたはUSBフラッシュメモリ）をバックアップとして別にお持ち下さい。
5. PowerPointファイルには、「演題番号と筆頭演者の氏名」でファイル名を付けて保存して下さい。
6. MacintoshのPCは用意してありません。Macintosh PCでの発表をご希望の方は事前に大会事務局までご連絡下さい。
7. フォントはOSで標準で装備されてあるものをご使用ください。
8. 動画の使用はご遠慮ください。どうしても動画の必要な方は事前に事務局までご連絡下さい。
9. サーバーに登録して頂いたデータは、発表終了後に完全消去いたします。
10. 口演時間
一般演題：10分（発表7分+討論3分）
※発表時間終了1分前に青ランプ、終了時に赤ランプにて警告いたします。時間厳守をお願いします。
シンポジウム：口演、討論は予め連絡してある持ち時間で、座長の指示に従ってください。

特別プログラム

特別講演

会長講演

教育講演

シンポジウム

ランチョンセミナー

イブニングセミナー

サテライトシンポジウム

市民公開講座

※セッション別に掲載されています。

■12月2日 金 ■第1会場

特別講演 1

11:00~11:50

座長 原田 信志 (熊本大学大学院医学薬学研究部)
根岸 昌功 (東京都立駒込病院)

Ethical considerations to help assure high quality care in the global epidemic of AIDS

Ruth B. Purtilo

Professor and Director, Ethics Programs, Massachusetts General Hospital
Institute of Health Professions, Boston, Massachusetts, USA

■12月2日 金 ■第1会場

特別講演 2

14:40~15:40

座長 松下 修三 (熊本大学エイズ学研究センター)

Structure/function relationships relevant to the V3 loop of HIV-1 gp120

Susan Zolla-Pazner

Departments of Pathology and Pharmacology, New York University School
of Medicine and New York Veterans Affairs Medical Center, New York, USA

■12月2日 金 ■第1会場

特別講演 3

15:40~16:40

座長 滝口 雅文 (熊本大学エイズ学研究センター)

T cell immunity and HIV vaccines

Andrew J. McMichael

Medical Research Council (MRC) Human Immunology Unit, Weatherall Institute of
Molecular Medicine, University of Oxford, John Radcliffe Hospital, Oxford, UK

■12月2日 金 ■第1会場

会長講演

14:00～14:40

座長 岩本 愛吉 (東京大学医科学研究所)

Multiple-site binding 説再考

原田 信志

熊本大学大学院医学薬学研究部感染防御

抄 録

一般演題

1 日目 12月1日(木)

2 日目 12月2日(金)

3 日目 12月3日(土)

膿胞性変化を認め縦隔気腫、両側気胸を合併した AIDS 合併重症ニューモシスチス肺炎の1例

鴨河宗聡、安岡 彰、舟田 久
富山医科大学医学部 感染予防医学

今回われわれはニューモシスチス肺炎の治療経過中に膿胞性変化を伴い縦隔気腫、両側気胸を合併して呼吸管理に難渋した症例を経験したので報告する。症例は51歳男性。約10年前より bisexual であった。2004年12月末より徐々に労作時呼吸困難が出現し増悪するため1/14当院受診。来院時、著明な低酸素血症と胸部CT上スリガラス状陰影を認めBALF所見よりニューモシスチス肺炎と診断した。ST合剤とメチルプレドニンパルス療法を併用したところ呼吸状態が改善傾向にあったが、縦隔気腫およびサイトメガロウイルス肺炎を併発し、呼吸状態が著しく悪化したため第13病日に人工呼吸器管理となった。その後、胸部CTにて縦隔気腫の増悪、膿胞性変化の出現および左気胸が発生した。呼吸状態が増悪したためトロッカーを挿入したが右気胸も合併し右側にもトロッカーを挿入した。気胸の改善がみられず保存的に経過観察していたが挿入20日目に右側挿入部より感染を起こした。トロッカーを一旦抜去したところ気胸の増悪を認めなかったため経過観察し、その後再挿入の必要はなかった。一方、左気胸については全く改善せずトロッカーを抜去できない状態が続いた。ADL低下や長期挿入による感染のリスクがあったため、胸腔鏡着術のため胸腔内に自己血を散布した。これが奏功しトロッカーを抜去することができた。ニューモシスチス肺炎では気胸を合併しやすいとされており両側気胸を合併した報告も散見される。しかし大半は不幸な転帰をたどっており本例のように救命し得た症例はまれである。ニューモシスチス肺炎では膿胞性変化と気胸合併の関連が強いとされており、本症例においても胸部CTにて膿胞性変化の進行を認めており、これが難治性の気胸にかかわっていたものと考えられた。

ST合剤による治療中に多発膿胞性変化の悪化を来した ニューモシスチス肺炎の2例

Horiba Masahide
独立行政法人国立病院機構東埼玉病院 呼吸器科

【緒言】ニューモシスチス肺炎 (PCP) は様々な画像所見を示し膿胞性変化を来す症例もある。今回多発する膿胞形成を来し ST 合剤による治療にも関わらず膿胞が悪化した2例を経験したので報告する。

【症例1】48歳男性。呼吸困難のため当院へ救急入院となった。6年前に HIV 感染症と診断され HAART を導入されたが4年前に自己中断していた。入院時、CD4 57/μl、HIV-1 RNA 1.4 × 10⁸ copies/ml、PaO₂ 47mmHg、PaCO₂ 31mmHg、β-D-グルカン 274 pg/ml であった。画像診断にて両肺に多発する膿胞形成と網状陰影を認め PCP と診断し、ST 合剤 (バクタ) 9錠/日とプレドニゾン (PSL) 30mg/日 で治療を開始した。第5病日に左肺の気胸を合併し、急速に膿胞病変の悪化と共に呼吸不全が増悪し、第20病日に多臓器不全にて死亡した。剖検所見では全肺野に多発する空洞形成を認め、空洞は壊死によるものであった。また、ニューモシスチス真菌の血管侵襲を認めた。

【症例2】45歳男性。発熱、呼吸困難で前医を受診し両肺の浸潤影と HIV 抗体陽性が判明し当院へ紹介入院となった。CD4 40/μl、HIV-1 RNA 1.4 × 10⁸ copies/ml、PaO₂ 56mmHg、PaCO₂ 36mmHg、β-D-グルカン 165pg/ml であった。気管支肺胞洗浄にて PCP と診断しバクタ 12錠/日と PSL 60mg/日 で治療を開始した。入院時の胸部 CT にて結節性病変と、その一部に空洞形成を認め、同病変は経過中に多発する膿胞性病変へと変化した。PCP の導入治療終了時、筋野のスリガラスおよび網状陰影は改善していたが膿胞性変化は改善していなかった。PCP の維持療法中に HAART を開始したところ膿胞性病変は急速に改善した。

【考察】PCP に生じる空洞、膿胞性病変は本症例1のように壊死によって生じている場合がある。このような壊死性病変は ST 合剤だけでは改善が不良であり、PSL も治療を妨げる可能性がある。従って、治療を急ぐ場合には HAART により早期に免疫を立ち上げる必要があると考えられる。

カリニ肺炎治療後に PML を発症、HAART 開始に伴って
神経症状が急速に悪化して死亡した一症例

松浦基夫¹、前田裕弘²、佐藤隆夫³、大成功一⁴

1)市立研病院 腎代謝免疫内科 2)近畿大学医学部 血液内科
3)近畿大学医学部病院 病理部 4)市立研病院 呼吸器内科

【症例】54才男性。

【カリニ肺炎の経過】2004年12月より労作性呼吸困難・微熱。2005年2月末より食欲低下・体重減少。3/17自宅近隣の病院に入院、HIV陽性が判明したため3/24当院に転入院。来院時のCD4:89、pO₂:56.6 (room air)、胸部レントゲン・CTでは両側肺門部を中心としたすりガラス影を認めた。前医のBAL-Fにてカリニ確認されたとの報告あり、ST合剤8T/日・PSL60mg/日にて治療開始。3週間後の4/14で治療終了。白血球減少・好酸球増多・皮疹などST合剤の副作用が考えられたため atovaquon に変更して5/2退院。

【PMLの経過】5月始めより「しゃべりにくい・字が書きにくい」との症状があったことが後日判明。5/13よりST合剤の減感作を行った上で5/20 HAART (TDF/3TC/EFV) 開始。6/3、見当識障害・記憶力障害・左右失認・手指失認・時間失認・失書・失算といった Gerstman 症候群に加えて右上肢運動の拙劣があり入院。6/6、髄液より JCV が検出され、脳 MRI でも PML に一致した所見を認めた。入院後も神経症状は進行し6/27には歩行不能、脳浮腫に対して脳圧降下剤・デキサメサゾン16mg/日の投与を開始したが効果は一時的で7/6意識レベル低下、7/8四肢の伸展位硬直に続き呼吸状態悪化して永眠され、開頭剖検。

【考察】HIV-RNA: 3.7 × 10⁴(5/10) → 2.5 × 10⁴(6/3) → 4.8 × 10⁴(6/16) → 2.8 × 10⁴(7/1) と低下、CD4: 52(5/10) → 411(6/3) → 282(6/16) → 385(7/1) と増加、HAART の著効は明らかで、免疫再構築が PML の進行に関与した可能性がある。また、カリニ肺炎治療終了後 HAART 開始までに PML を発症しており、HAART の開始時期についても再考が必要かもしれない。

サイトメガロウイルス肺炎を合併した HIV 初期感染の1例

水澤昌子¹、藤田 明²、島山修司²、服部俊夫²

1)東京都立府中病院
2)東北大学大学院医学系研究科 感染症・呼吸器病態学分野

症例は20代の MSM。平成16年3月末より発熱が続き4月に近医を受診。採血で肝機能障害を指摘され、精査・加療目的で他院へ入院。両側頸部リンパ節腫大と肝脾腫が認められ、EBウイルス感染症が疑われたが血清学的に否定され、抗生剤 (IPM/CS) を投与しても解熱せず、5月下旬に当院を紹介受診。精査・加療のため入院となった。入院時、CD4 80/nL、HIV RNA 2.0 × 10⁴copies/mL、抗 HIV 抗体が PA 法で陽性でありながら WB 法で判定保留となり、HIV 初期感染が疑われた。入院後も発熱は持続し、1週後より SpO₂ が徐々に低下。PCP を疑って気管支鏡検査を施行したが、気管支洗浄液のグロコット染色で菌体は検出されず、核内封入体の見られる大型の細胞が認められたことからサイトメガロウイルス肺炎と診断。同日より Ganciclovir 600mg/日投与を開始したところ、翌日には解熱して酸素化も改善した。Ganciclovir を3週間投与後、良好な全身状態で退院した。入院時から判定保留が続いていた WB 法による抗 HIV 抗体は発熱出現後から約3ヶ月で陽性となった。一般にサイトメガロウイルス肺炎は晩期の HIV 感染者で見られる日和見感染症で、初期感染例に合併することは稀であることから、本症例は貴重な1例であり、文献の参考を加えて報告する。

演者索引

(アルファベット順・五十音順)

- ◆人名索引になっています。
- ◆表示の番号は「演題番号」です。
- ◆筆頭演者である演題番号の前には「○」印がついています。

演題番号の見方

【特別講演】	「特別講演」 + 順番号	例：特別講演1
【会長講演】	「会長講演」	
【教育講演】	「教育講演」 + 順番号	例：教育講演1
【シンポジウム】	「S」 + 「セッション番号」 + 順番号	例：S1-1
【ランチョンセミナー】	「L」 + 「セッション番号」	例：L1
【イブニングセミナー】	「E」	
【サテライトシンポジウム】	「SS」 + 「セッション番号」 + 順番号	例：SS1-1
【市民公開講座】	「市民講座」	
【一般演題】	3桁番号	例：001

【演者】	【演題番号】	【演者】	【演題番号】
		Eskandarieh Sharareh	080
			081
	【A】		
Abudu Aierin	135		
Aierken Abudu	○134	【G】	
Aierkin Abudu	136	Guangwei Yang	218
Andrew J. McMichael	特別講演 3		
Ann Khalsa	L6	【H】	
Ariyoshi Koya	312	Heneine Walid	103
	313	Horiba Masahide	○002
Arun Ghosh	214	Hoshina Yoshimi	146
	215		
Aye Kay Thi	146	【I】	
		Itoda Ichiro	○030
	【B】	Iwaki Elisa	○034
Baba Masanori	230		
		【J】	
	【C】	Jacob Barnor	225
Chang Myint Oo	○125	Jitjuk Bongkod	312
Chowdhury A. B. M. A.	080		313
	○081	Joel E. Gallant	L1
Cooper David	132		S1-5
		Jun Wang	216
	【D】		
		【K】	
David Ofori-Adjei	225	Kamarulzaman Adeeba	147
Deshratn Asthana	277	Kang Jeong-Hun	223
Didier Trono	142	Keith F. McDaniel	216
Drummond F	170	Ke-Qin Xin	222
			○229
EFV study group	161	Kobiyama Kouji	222

【演者】	【演題番号】	【演者】	【演題番号】
Kusagawa Shigeru	146	Pon Chee Keong	147
	[L]	Pope Kosalarakla	160
Lay Myint	138	Rajesh Sankaranarayanan	216
Li Xiao-jie	○146	Rojanawiwat Archawin	313
	147	Rom William N	199
	148	Ruth B. Purtilo	特別講演 1
	149		[S]
Lima Araujo	034	Sawanpanyalert Pathom	312
Lwembe Raphael	○099		313
	100	Songok Elijah Maritim	099
Lynn Colletti	216	Sriwanthana Busarawan	312
	[M]		○313
		Sukumar Saha	222
Ma Yanling	148	Susan Zolla-Pazner	特別講演 2
Matsui Kiyohiko	○222		[T]
Mwansa Munkanta	317		
	[N]	Takebe Yutaka	146
			147
Ndembi Nicaise	100	Takeshita Fumihiko	222
Ng Kee Peng	147	Tanaka Mari	○312
Nohtomi Kyoko	147		313
	[O]	Tatyana Dekhtyar	216
		Tee Kok Keng	○147
Okuda Kenji	222	Thwe Min	146
	[P]	Toda Sumako	222
		Trin Duy Quang	278
Pathipvanich Panita	312		[U]
	313		
Poehlman Roediger M	170	Urvi Parikh	092

寄付・協賛企業・財団一覧

【企業】

アボット ジャパン株式会社
グラクソ・スミスクライン株式会社
鳥居薬品株式会社
万有製薬株式会社
正晃株式会社

【財団】

財団法人エイズ予防財団
財団法人化学及血清療法研究所
肥後医育振興会

企業展示一覧

アボット ジャパン株式会社
ティーアンドケー株式会社
独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

五十音順、敬称略、2005年9月30日現在